

研修報告書 No. 9

研修先： 梶原病院

2025 年の 6 月の 1 ヶ月間、高知県高岡郡梶原町にあります、梶原病院にて地域医療研修を行いました。

梶原病院は梶原町内最大の病院であり、常勤の医師は 4 人と非常に限られた中で日々の業務に従事しており、内科的疾患を中心に、創傷処置といった外科的処置や、内視鏡検査といった専門的な処置まで幅広く対応していました。

また、救急病院として 24 時間救急搬送を受けており、先生方は専門領域以外の疾患に対しても対応し、夜間には X 線や CT を撮像や、血液検査の遠心分離を自分自身で行うなど、必要あればほとんどの業務をこなしており、感服すると同時に普段自分が置かれている環境においていかに甘えているかを痛感しました。私が普段勤務している大学病院では X 線や CT などの画像検査は診療放射線技師が撮ってくれて、放射線の医師が画像の読影をつけてくれます。2 次救急の初診の当直の際は、ファーストタッチをし、鑑別がつくと必要な際には専門科の先生に診察をお願いできます。医師が自分だけということはなく困ったらすぐに頼れる環境にいるため、梶原病院の先生方が診察、検査、治療方針のアセスメント、外来フォローを一人でこなしていることは新鮮でした。また、重症度に応じては適宜、高知市内や宇和島の高度医療機関に搬送を行っており、いかに他の病院と密に連携を図っているのかも知ることが出来ました。

今回の地域医療研修で印象的だったことを 2 つほど挙げたいと思います。まずは、お看取りの患者さんに接する機会が多かったことです。普段は急性期の病院で勤務していることから、慢性期の患者さんに接する機会は少ないです。そのため、看取りの患者さんに対して、限られた医療資源の中でどこまで医療を提供するかや、本人や家族に対してどのような最期を迎えるかにあたっての話を進めていくかは非常に勉強になりました。特に印象に残っている方は、進行子宮頸部腺がんに対して、BSC で訪問診療を行っていた方です。最終的に余命があと数週間となり自宅での生活が厳しくなった際に、それでも最期まで自宅での生活を続けるのか、病院に看取りとして入院するのかを家族ともよく話し合った上で入院し、最期を看取った患者さんはすごく印象に残りました。

また、もう一つはケアプラン会についてです。医療、行政、福祉、介護といったあらゆる職種の方が参加し、週に 1 回ほど、入院患者さんだけでなく、外来通院中や退院している患者さんに関しても、必要があれば適宜在宅サービスの検討などを行っていました。このように町の医療、行政、福祉、介護といったあらゆる機関が密にそれぞれ連携を図ることで町に住む方全体の包括的なサポートをし、町民に最適な医療が行き届くように工夫がなされていることを知り、非常に勉強になりました。

最後に、私自身は、医師臨床研修が終わると、来年度から形成外科に進みます。そのため創部処置の患者さんに対し、適切な被覆剤の選択をし、毎日診察を行うことで創部に問題がないかを確認し、また救急で来られた患者さんに適切に縫合を施した上で、形成外科のある大きな病院に紹介受診するなど、形成外科領域の様々なことも学べました。普段大学で研修していて学ぶ機会が少ない事柄であるため、形成外科専攻医になる前に様々なことを学べてよかったです。

1ヶ月と短い期間でしたがこのように色々なことを勉強し、成長できたのはひとえに栲原病院の先生方をはじめ、看護師さん、技師さん、事務員さん達がとても優しく接していただき、ストレスなく働くことが出来たからだと思っています。とても実りある研修生活となりました。この経験をいかして専攻医になっても頑張っていきたいと思います。1ヶ月間ありがとうございました。